

発熱と発疹を伴う急性感染症

お子さんのカゼのほとんどはウイルス感染症によるものです。
発熱発疹を伴う急性感染症もほとんどがウイルスによるものです。
有名なものをいくつかあげておきます。

1. 麻疹(ましん=はしか)

麻疹ウイルスによる。潜伏期間は10-12日。
感冒様症状に引き続き、発熱発疹が見られます。咳嗽は必発です。
発疹は顔面、頸部から1日のうちに全身に拡がります。
赤黒い色素沈着を起こしますが、いずれ消退していきます。
中耳炎、肺炎、脳炎(1/1000人)などの怖い合併症があります。
治療は対症療法しかありません。予防のためにワクチンを接種します。

2. 風疹(ふうしん=3日はしか)

風疹ウイルスによる。潜伏期間は14日-21日。
発熱、淡紅色の細かい発疹が見られます。
麻疹より重症感が少ないことが多い印象です。
脳炎は1/5000人の頻度です。予防はワクチンです。
妊婦さんが風疹に罹患すると先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれることがあります。



3. 水痘(すいとう=みずぼうそう)

水痘ウイルスによる。潜伏期は14-21日。
発熱、発疹を認めますが、発疹は発赤→水痘→膿瘍→痂皮化(かさぶた)の経過をとります。
発疹はかゆみを伴うことが多くあります。
免疫が下がっている小児(白血病、悪性腫瘍、ネフローゼ症候群、重症気管支喘息など)では、重症化する危険性があり、予防接種を必ず受けておきましょう。

4. 手足口病

エンテロウイルスによる。
エンテロウイルスはもともと腸管系ウイルスですが、
夏場は発熱、咽頭痛、四肢の発疹を起こすことで有名です。
時に髄膜炎を合併することがあります。



5. 突発性発疹症

ヒトヘルペスウイルス6型、7型による感染症。
2歳までの乳幼児期に多く発症します。
38-40℃の高熱が3-4日間持続し、分断的に解熱した後、
躯幹を中心に淡紅色の発疹が認められます。
合併症として熱性けいれんが有名です。



6. 伝染性紅斑

ヒトパルボウイルスによる感染症。
両側頬部のびまん性紅斑や四肢のレース状、網目状の紅斑を認めます。
その頃には他への感染力はなく、通常の生活が可能です。

大人の咳に使える漢方薬

お子さんは咳が出ると、麦門冬湯(ばくもんどうとう)、麻杏甘石湯(まきょうかんせきとう)、五虎湯(ごこうとう)をよく使います。

麻杏甘石湯、五虎湯には麻黄(まおう)が入っており、これを大人が飲むと、吐き気、動悸、手のふるえ等を起こすことがあります。
全く起こさない人もいますが、注意が必要です。
麦門冬湯は小児から大人まで飲むことが可能です。

大人の方でカゼをひいてこじれてしまい、咳がいつまでたっても止まらないときは、竹節温胆湯(ちくじょうんだんとう)があります。
麦門冬湯を飲んででも、なかなか治らないときに滋陰降火湯(じいんこうかとう)を使います。
加味逍遥散(かみしょうようさん)を使っている人、使いたくなるようなタイプの人がカゼをひいて、いつまでも長引くときには、滋陰至宝湯(じいんしほうとう)があります。
胃腸虚弱の人がカゼをひいて、やや長引いているなら参蘇飲(じんそいん)を使います。



お知らせ

岐阜市の漢方外来

9月7日(土)、14日(土)

14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市健康東町2-1) ※すべて「院外処方」となります。

小児夜間急病センター当番日

9月20日(金)

19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院にて

休診日のお知らせ

9月25日(水)

都合により休診します。御迷惑をおかけしますが、よろしくお願ひします。